

【平成 26 年3月期 第2四半期 アナリスト・機関投資家向け決算説明会】 質疑応答概要

※説明会における主な質疑応答をご紹介します。なお、文中は年度で表記しております。

<日 時> 2013 年 11 月 19 日(火) 10:00~11:30  
<出席者> 明治ホールディングス(株) 代表取締役社長 浅野 茂太郎  
Meiji Seika ファルマ(株) 代表取締役社長 松尾 正彦  
(株)明治 代表取締役社長 川村 和夫  
明治ホールディングス(株) 取締役常務執行役員 平原 高志

**Q1) 乳製品事業は、13 年度上期計画を上回る実績となりましたが、プロバイオティクスの伸長以外で収益力が向上した要因はありますか。**

A1) 生産面では、生産効率化と物流コスト低減が大きく貢献しています。一方、販売面では、販促費用の効率化に取り組んでおり、そうしたことも全体的な収益力の改善に貢献しております。

**Q2) デフレの継続や消費者の節約志向が強く残っている中で、14 年度からの消費増税が市場環境に与える影響が懸念されています。そうした中で、どの様な取り組みを考えていますか。**

A2) 「TAKEOFF14」では、「既存事業の強化・拡大」、「成長事業の育成」を掲げております。成長が見込める事業は、14 年度以降の環境に関わらず、これまで進めてきたブランド強化への取り組みを更に促進させ、お客様に手に取っていただける強いブランドへと育ててまいります。

**Q3) ブルガリアヨーグルトが発売 40 周年を迎え、新たな価値を提供していくとのコメントがありましたが、具体的にはどの様な施策を考えていますか。**

A3) 発売 40 周年の節目を捉え、様々な企画を進めてまいります。詳細は追ってお知らせいたします。

**Q4) 14 年度の菓子事業は、13 年度上期に実現した収益性改善以上の効果が期待できますか。**

A4) 菓子事業は、事業の効率化に取り組む一方、ロングセラーブランドに集中し、収益力向上への改革を進めております。14 年度は、円安や相場変動に伴う原材料価格の高騰が逆風となりますので、それらも踏まえて引き続き取り組んでまいります。

**Q5) 13 年度通期計画では、菓子・健康栄養の営業利益率の改善がポイントだと考えています。今後の両事業の営業利益率のポテンシャルをどの様に考えていますか。**

A5) 菓子事業は、嗜好品を多く取り扱っている点や、今後の国内の人口動態の推移を考えると、飛躍的な売上拡大を望みにくい環境ですので、まずはコスト低減により収益性を高めていくことを重視しております。一方、健康栄養事業につきましては、市場の伸びがまだ期待できますので、比較的堅調に推移しているスポーツ栄養や流動食を中心に、今後も売上拡大とコスト低減の両方に取り組んでまいります。

**Q6) 中国における市乳事業の展開について、3 年後(2016 年度)の売上高は、会社計画である 20 億円を超えるのではないかと考えていますが、いかがでしょうか。**

A6) 既に事業展開している菓子事業やアイスクリーム事業などを通じた経験を持っておりますが、チルドの牛乳・ヨーグルトの生産販売については初の事業展開となりますので、生乳調達や市場動向、インフラの状況を入念にチェックしながら事業展開を進めてまいります。今後の状況につきましては、折に触れてご説明してまいります。

Q7) 14年度に薬価改定が予定されています。その中で、医薬品事業の14年度営業利益目標100億円の実現性について教えてください。

A7) これまでも薬価改定の都度、影響を織り込んで計画を策定しておりますが、現在、新たな国の政策についての議論が進められております。従いまして、14中計策定時と現在では弊社を取り巻く環境が変化しておりますが、それらを踏まえた上で、引き続き、「スペシャリティ&ジェネリック」の戦略に基づき、得意領域である「感染症領域」「中枢神経系領域」「ジェネリック医薬品」を軸に、計画達成に努めてまいります。

Q8) 14年度の明治グループ全体の営業利益目標400億円について、現在取り組んでいる構造改革を踏まえ、次年度の見通しを教えてください。

A8) 14年度400億円の達成に向けた構造改革は現在順調に推移しております。今後の推移を見守りつつ、発表できる段階となりましたら、改めてお知らせいたします。

以上